

現代を代表する
舞踊家による
日本舞踊公演

現代を代表する
日本舞踊家が流派を超えて
競演する日本舞踊協会公演です。
古典舞踊の名作、大作をはじめ
近現代の舞踊家による振付作品、
そして上方舞まで
さまざまな姿をご覧に入れます。
日本舞踊は長い歴史の中で
脈々と受け継がれてきました。
日本人ならではの洗練された美、
軽やかなおかしみなど、
豊かな表現にあふれる日本舞踊の
世界をぜひご鑑賞ください。

演奏

※一部未定の演目があります。

《長唄》

〔桜絵巻〕蜘蛛の拍子舞〔船弁慶〕

杵屋 勝四郎（唄）

杵屋 栄八郎（三味線）

〔富士の雪〕汐波〔いつくしま〕

今藤 長一郎（唄）

杵屋 栄八郎（三味線）

〔清元〕

〔鞍馬獅子〕夕顔柳〔女車引〕

清元 美寿太夫（浄瑠璃）

清元 美治郎（三味線）

〔常磐津〕

〔子宝三番叟〕鏡〔将門〕〔景清〕

常磐津 一佐太夫（浄瑠璃）

常磐津 文字蔵（三味線）

〔義太夫〕

〔お七〕

竹本 駒之助（浄瑠璃）

鶴澤 津賀寿（三味線）

《大和楽》

〔四季の花〕まほろばの四季

大和 左京（唄）

大和 櫻笙（三味線）

〔地歌〕

〔たぬき〕

富山 清琴

〔箏曲〕

〔光秀〕

深海 さとみ

〔まほろばの四季〕いつくしま

米川 敏子

〔囃子〕

堅田 新十郎

〔録音音源による上演演目〕

〔風の城〕

【チケット料金】

1等 8,500円(指定席) / 2等 5,000円(指定席) / 3等 2,000円(自由席)

【前売り開始日】

平成30年12月25日(火) 10時より

【各種割引】

25歳以下割引・障害者割引
当日会場受付にてお一人様 1,000円キャッシュバック(1等、2等限定)

※ 前売・当日売に関わらずキャッシュバックいたします。公演当日に限りです。
※ 当日年齢が確認できる証明書・障害者手帳を日本舞踊協会受付でご提示ください。

【チケット取扱】

- ヴォートルチケットセンター
電話:03-5355-1280 (オペレーター対応 平日10時~18時)
- 電子チケットぴあ
電話:0570-02-9999 (Pコード:490-731) インターネット予約 <http://t.pia.co.jp>
- 国立劇場チケットセンター (窓口取扱のみ)
東京都千代田区隼町4-1 電話:03-3265-7411

【主催・お問い合わせ】

公益社団法人 日本舞踊協会 03-3533-6455
(平日10時~17時)

【後援】



美しい舞踊を
新しい時代へ

第六十二回

現代を代表する舞踊家による日本舞踊公演

日本舞踊協会公演

平成三十一年 二月十六日(土) 十七日(日)

〔開演〕 昼の部 12時 / 夜の部 午後4時30分 ※開場30分前

国立劇場大劇場

東京都千代田区隼町4-1 ☎03-3265-7411

公益社団法人 日本舞踊協会

TokyoTokyo FESTIVAL 2019 都民芸術フェスティバル



五、常磐津「将門」
まさかど
傾城如月実は滝夜叉姫
中村梅彌
大宅太郎光園
藤間蘭黄

妖気をはらんだ滝夜叉姫の登場から色仕掛けのクドキ、光園との派手な立廻りまで、歌舞伎舞踊屈指の名作です。

四、大和楽「まほろばの四季」
しき
「まほろば」とはその土地の素晴らしさを称える言葉です。古都・奈良の四季折々を情緒豊かに踊ります。
作詞・藤須磨子
作曲・大和久満
振付・山村友五郎

花柳壽輔
花柳壽應
花柳ツル

三、義太夫「蝶の道行」
ちよう
みちゆき
助国猿若清三郎
小横吾妻徳陽

現世では結ばれなかった恋する男女の冥途への道行。二人が蝶となって美しく舞い踊る夢幻的な世界がみどころです。
振付・初代吾妻徳穂

二、常磐津「鏡」
かがみ
太郎冠者 鏡磨き実は盗人
若見匠 祐助 藤間仁風
腰元花子 翔蓉 若柳吉優

うっかり鏡を盗まれた太郎冠者がばれないようにとった苦肉の策とは？ユーモラスな舞踊が笑いを誘います。
作・渥美清太郎
作曲・常磐津菊三郎
振付・藤間藤子

一、「風の城」
かぜ
しろ
花柳基
西川柳一
西川扇重
西川扇衛
西川扇与一
西川大樹
花柳琢次郎

戦いに明け暮れながら城を築くことに人生をかける一人の男。その生き様をダイナミックに描く素踊り舞踊の傑作です。
作・構成・振付・花柳昌太郎
音楽構成・高橋嘉市

花柳基彦
花柳寿美藏
花柳登貴太郎
花柳昌克
花柳昌鳳生
花柳達也
花柳光陽
若柳吉應
若柳里次朗

一、大和楽「四季の花」
しき
はな
花柳源九郎
花柳静久郎
花柳延祐
花柳吉史加
花柳幸舞音

幕開きは日本の美しい花が彩ります。春夏秋冬四季折々の花を愛でた曲を、情緒豊かに踊りつつつります。
作詞・芳賀稔 作曲・大和久満
振付・藤間藤太郎

花柳路太
花柳基はるな
花柳はつ花
花柳勘舞恵
花柳藤栴

二、清元「鞍馬獅子」
くらまじし
物狂いの卿の君と大神楽に扮した喜三太、顔見世狂言の趣きあふれる、踊りの見せ場たっぷり的人气曲です。

喜三太 花柳寿太郎

三、長唄「桜絵巻」
さくらえまき
花の咲き誇る春景色の中、華やかに繰りひろげられる舞踊絵巻。岡山県、広島県、山口県の協会三支部による合同出演です。
作詞・石川澤月 作曲・菊岡裕晃
振付・西川扇与一 花ノ本寿

坂東千絵舞
藤間裕美靖
若柳桃保
藤間文津姫
若柳吉祐矢

錦川岳昇
花柳雅あやめ
藤間寿三豊
藤間敏乃梨

四、常磐津「子宝三番叟」
こだからさんばそう
子だくさんの大名が、太郎冠者とともに子供たちの四季の遊びを踊ります。品よくほのぼのとした雰囲気をお楽しみください。

大名 西川扇藏
太郎冠者 西川箕乃助

五、長唄「蜘蛛の拍子舞」
くも
ひょうしまい
三条小鍛冶宗近の娘妻菊に化した蜘蛛の精が、源頼光に仇をなそうと現れます。刀工の拍子舞や立廻り等、醍醐味ある歌舞伎舞踊です。

白拍子妻菊実は蜘蛛の精
源頼光 花柳せいら
確井貞光 藤間直三

五、長唄「船弁慶」
ふなべんけい
静御前平知盛の霊
花柳寿楽
市山松扇
源義経 花ノ本 寿

六十二回公演を締めくくる松羽目物の大作。前半は義経との別れの舞を舞う静御前、後半は義経に襲いかかる知盛の亡霊、異なる役を一人で勤めるところが見どころです。

舟子 花柳輔太郎
花柳吉優亮
花柳貴柏

四、常磐津「景清」
かげきよ
平家の武将景清が廓話になぞらえて源平の合戦の様子を踊ります。日本舞踊らしい洒落た趣向が味わえます。

尾上墨雪

三、地歌「たぬき」
たぬき
地歌のおどけ物の一つ。たぬきの命乞いやお礼の腹鼓、狩人との連れ舞など技巧をこらした舞にご注目ください。

狩人 山村友五郎

二、清元「女車引」
おんなくるまびき
吉原の年中行事「俄」で初演、「車引」の三兄弟、その女房たちが登場します。陽気で賑やかな踊りをお楽しみください。

千代藤静枝
春西川扇千代
八重吾妻寛穂

一、長唄「いつくしま」
自然と人の文化が見事に調和した世界遺産・厳島神社。平清盛の信仰心をもとに厳島の情景を女性群舞で描きます。
原作・吉川英治
脚色・宇野信夫
作曲・三世今藤長十郎
振付・花柳寿南海

藤間恵都子
花柳秀衛
花柳智寿彦
花柳朋奈
水東扇升
若柳薫子
若柳美香康

一、長唄「富士の雪」
ふじ
ゆき
日本を象徴する霊峰富士。雪をいただく富士の姿や富士にまつわる羽衣伝説、竹取物語、曾我物語などを素踊りで描きます。
振付・初代若柳吉蔵

若柳壽美延
花柳壽藏
若柳吉蔵

二、長唄「汐汲」
しおくみ
須磨の浦の海女・松風と村雨の姉妹。秋の夜、月の光の中、都へ戻った在原業平の面影に思いを馳せます。
振付・初代吾妻徳穂

松風花柳喜衛文華
村雨藤蔭静寿

三、清元「夕顔棚」
ゆうがおだな
夏の夕暮れ時、湯上りの夕涼みをする老夫婦。素朴な二人の、おかしみのある仲睦まじさが心にしみる名作です。
振付・坂東三津之丞

翁 里の男 秀樹
若柳宗樹
藤間秀嘉

四、箏曲「光秀」
みつひで
日本の歴史上でも未だ謎の多い信長と光秀の関係。二人を対峙させながら、男の二面性を舞踊で描く異色作です。
作・近藤瑞男
音楽構成・豊竹呂大夫
作曲・深海さとみ
振付・尾上墨雪

信長 尾上菊透
松本幸四郎
光秀 尾上珠太郎
尾上菊之丞 花柳克九郎
藤間豊彦 花柳九光

五、義太夫「お七」
お七
恋人を救いたい一心で火の見櫓の半鐘を打つ八百屋お七。お七の恋心を京舞井上流ならではの人形振りで舞います。

井上八千代

—— イヤホンガイド ——

2月16日(土)夜の部ではイヤホンガイド(有料500円)をご利用いただけます。鑑賞の手助けにぜひご利用ください。日本語、英語の2ヶ国語ございます。公演当日、劇場内イヤホンガイド受付でお申し込みください。

第62回 日本舞踊協会公演 プレ レクチャー

日時 平成31年2月12日(火) 14時~15時30分 講師 古井戸秀夫
会場 国立劇場伝統芸能情報館 3F レクチャー室 料金 無料・先着100名
お申し込み方法など詳しくは日本舞踊協会ホームページ www.nihonbuyou.or.jpをご覧ください。

日本舞踊がもっとわかる!公演がもっと楽しめる!

古井戸秀夫氏(東京大学名誉教授・日本舞踊協会副会長)によるレクチャーを開催します。各回の見どころや鑑賞のポイントをわかりやすく解説します。